

感染症発生動向調査委員会報告 6月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。
- 咽頭結膜熱が、磯子区、緑区で警報レベルです。
- 水痘が、鶴見区、緑区、瀬谷区で注意報レベルです。
- 伝染性紅斑が、中区、港南区、青葉区、栄区で警報レベルです。
- 手足口病の流行に注意が必要です。

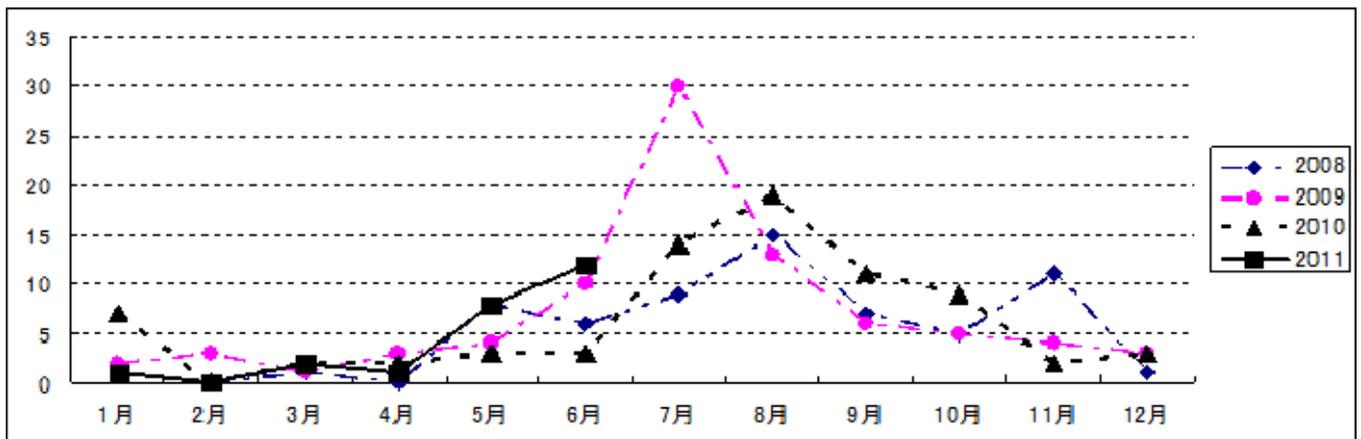
全数把握疾患

<細菌性赤痢>

1件の報告がありました。菌種は*Shigella sonnei* です。国内での感染が推定されています。

<腸管出血性大腸菌感染症>

12件(O157VT1VT2が8件(うち3件は家族内感染)、O157VT2が2件、O26VT1が1件、O26VT1VT2が1件)の報告がありました。特定の飲食店等での集団感染はありませんでしたが、家族内での発生が見られ、家庭内での調理や食事にも注意が必要です。例年夏季に感染者数のピークを迎えますが、過去3年間と比較して今年の感染者数の増加は目立っており、今後の注意が必要です。本症は特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。



<パラチフス>

1件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

<A型肝炎>

1件の報告がありました。ウズベキスタンでの感染が推定されています。

<マラリア>

1件の報告がありました。卵形マラリアで、ザンビア共和国のチパタ(東部州の州都)での感染が推定されています。

<後天性免疫不全症候群>

3件(無症候期)の報告がありました。

<麻しん>

4件の報告(成人3件、幼児1件)がありました。いずれも臨床診断例です。近隣の自治体では、2011年1月～6月22日までに東京都の麻しん累積患者数が148件にのぼり、流行が続いているので、今後の状況に引き続き注意が必要です。対象者への確実な予防接種の実施が望まれます。

※各感染症については、横浜市衛生研究所HPをご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/>

定点把握疾患

平成23年5月23日から6月26日まで(平成23年第21週から第25週まで。ただし、性感染症については平成23年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成23年 週一月日対照表

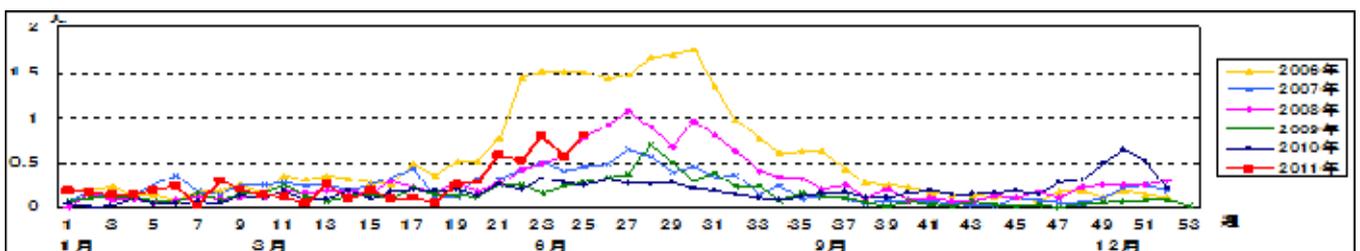
第21週	5月23日～29日
第22週	5月30日～6月5日
第23週	6月6日～12日
第24週	6月13日～19日
第25週	6月20日～26日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<咽頭結膜熱>

第25週では、磯子区で定点当たり5.75、緑区で4.00と、警報レベルを上回りました。磯子区では5週間警報レベルが持続しています。市全体では0.79と警報レベルに至っていませんが、漸増しており、例年初夏から流行が見られる疾患ですので、今後の推移に注意が必要です。25週では、全国0.77、県域(横浜、川崎、相模原市除く)0.68、川崎市0.44、東京都0.75でした。

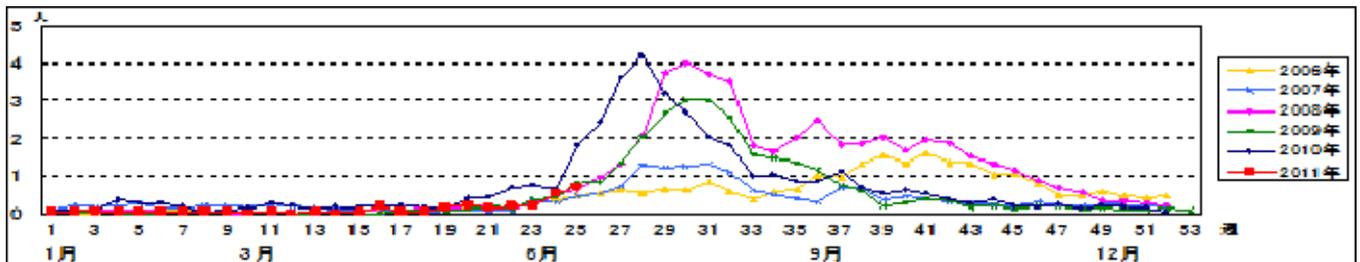


<水痘>

第25週では、鶴見区4.20、緑区5.40、瀬谷区4.75で注意報レベルとなっています。緑区では3週間注意報レベルが持続しています。市全体では2.07と3週間連続で低下していますが、例年初夏に流行が見られる疾患ですので、今後の推移に注意が必要です。25週では、全国1.65、県域2.88、川崎市1.09、東京都1.21でした。

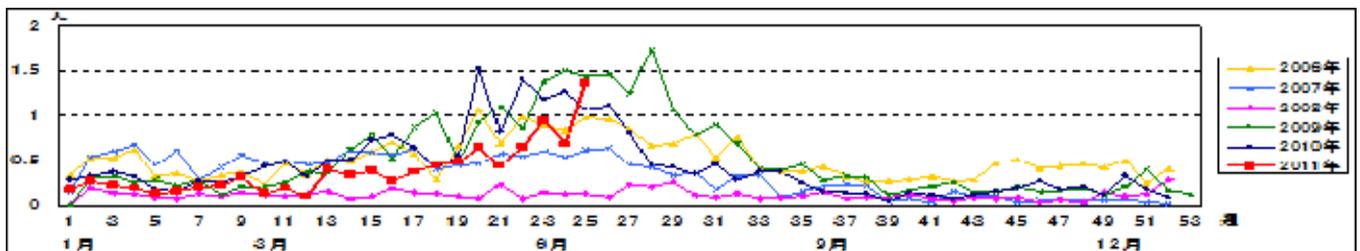
<手足口病>

第25週では警報レベルの区は無く、市全体でも落ち着いていますが、市全体の24週0.51から25週0.70とやや増加しており、この立ち上がりのパターンは2008年と酷似しています。2008年は29、30週頃(7月下旬)に流行のピークを迎えたので、今後の警戒が必要です。25週では、全国4.27(主に西日本で流行)、県域0.36、川崎市1.19、東京都1.34でした。



<伝染性紅斑>

第25週では、中区5.50、港南区2.20、青葉区2.17、栄区4.25と警報レベルを上回りました。栄区では6週間警報レベルが持続しています。市全体では1.38ですが、24週の0.69からほぼ倍増しており、例年初夏から流行が見られる疾患ですので今後の推移に注意が必要です。25週では、全国1.47、県域1.33、川崎市1.69、東京都1.37でした。



<性感染症>

性感染症は、産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。5月では、性器クラミジア感染症は男性が19件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は、男性が7件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性7件でした。淋菌感染症は、男性が15件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

5月は第21週に無菌性髄膜炎の報告が1件(4歳男児)、マイコプラズマ肺炎が第25週に1件(8歳女児)ありました。マイコプラズマ肺炎は、第4～6週に4件報告されて以来の報告です。細菌性髄膜炎は今年に入って1件もありません。クラミジア肺炎は第14週に1件報告されたのみです。

< 基幹定点月報 >

5月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症6件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

< ウイルス検査 >

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件(鼻咽頭ぬぐい液42件、ふん便・直腸ぬぐい液7件)、基幹定点1件(髄液1件)、眼科定点2件(眼脂2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎22人、下気道炎9人、胃腸炎6人、突発性発疹症疑い、手足口病、流行性耳下腺炎、りんご病各2人、咽頭結膜熱、ウイルス性発疹症、EB(Epstein-Barr)ウイルス感染症、発熱のみ各1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、急性結膜炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人でした。

7月10日現在、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者2人、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人からパラインフルエンザウイルス3型が、小児科定点の上気道炎患者1人と咽頭結膜熱患者1人、眼科定点の流行性角結膜炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者3人と下気道炎患者2人、突発性発疹症疑い患者1人からヒトメタニューモウイルス、下気道炎患者1人からRSウイルス、下気道炎患者1人からコクサッキーAウイルス16型、下気道炎患者1人からアデノウイルス3型、下気道炎患者1人からヒトコロナウイルスOC43型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス40/41型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

< 細菌検査 >

6月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体はなく、基幹定点から菌株受付が30件、定点以外の医療機関等からは18件あり、赤痢菌、腸管病原性大腸菌、腸管出血性大腸菌、腸管毒素原大腸菌、パラチフスA菌、サルモネラ、カンピロバクター等が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から10件で、A群溶血性レンサ球菌(血清型はT1、T3、TB3264)、インフルエンザ菌、肺炎球菌が検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2011年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	30	18	2	68	32
菌種名						
赤痢菌			1		2	2
腸管病原性大腸菌		1			3	
腸管出血性大腸菌			11			17
腸管毒素原性大腸菌		1			2	
パラチフスA菌		1			3	
サルモネラ		15			15	3
カンピロバクター			3			3
黄色ブドウ球菌					1	1
コレラ菌						1
クロストリジウム			1			1
不検出	0	12	2	2	42	4

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2011年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	10	0	0	44	4	24
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		7		
	T3	2		3		
	T4			3		
	T12			8		
	T25			2		
	T28			4**		1
	T B3264	3		5		
	型別不能			2		
B群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4	
バンコマイシン耐性腸球菌						15
<i>Achinomyces</i>						1
<i>Branhamella</i>				1**		
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌		2**		4**		
肺炎球菌		3**		4**		
不検出	1	0	0	7	0	1

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

** : 同一検体から複数菌検出

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】